

令和 7 年 3 月 24 日

◎上治委員長 ただいまから、人口減少対策調査特別委員会を開会いたします。

(14時29分開会)

◎上治委員長 本日の委員会は、人口減少対策調査特別委員会のこれまでの取組などについてであります。

当委員会では、これまでに、執行部から、高知県元気な未来創造戦略の取組について、聞き取りを行いました。また、有識者として、高知大学の森田教授と、明治大学の小田切教授を招致いたしまして、意見聴取を実施。年を明けて、県内、県外調査を行ってまいりました。本日はこれまでの取組についての取りまとめと、令和 7 年度の当委員会の調査について、御協議いただきたいと思います。

本日の委員会の日程につきましては、お示ししました、日程案によりたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(異議なし)

◎上治委員長 御異議なしと認めます。

それでは、日程に従いまして、議題について進めてまいりたいと思います。

まず初めに、お手元にお配りをしています資料 1、人口減少対策調査特別委員会のこれまでの調査状況について、書記に説明をさせます。

◎書記 まず、8 月 1 日から、12 月 24 日の間、執行部から聞き取りしました委員会については、各委員からの御意見をまとめております。次に、有識者からの聴取及び県内、県外調査につきましては、説明概要を記載した上で、各委員からの御意見をまとめております。簡単ではございますが、以上です。

◎上治委員長 これまでの活動の中で、各委員から出ました意見を、21 ページにまとめてありますので、また御覧いただきたいと思います。

来年度は、委員長報告をするということにしておりますが、これは、その報告のもととなっていくものでございます。またこの中で、意見を出したのに、抜かっているとか、こんなこと言ったはずなのにということがあるのかも分かりませんが、そういうことを踏まえて、今までの中で、皆さん方が見ていただいたことの意見の集約について、御協議を願いたいと思います。それでは、御意見ございましたら、お願いいたします。

小休にいたします。

(小休)

◎ 私の意見もちちゃんと入ってます、結構でございます。

◎ この 21 ページの意見の集約ということですが、これは、委員会としての意見と

いう。

- ◎ これ順番にまだまとまってないんですけど、今まで委員会で、調査、聞き取ったりした項目が、大体こういうふうな項目だったというところをあげてます。そこから絞り込みをしていかないかんけど、大きい項目というふうに捉えていただいたら。
- ◎ 例えば、この出会いの機会創出のところなんですけれども。委員会で視察に行った、東洋町、馬路村での聞き取りでは、出会いの創出については、否定的とまで言えるかどうかあれですが、なかなか効果がないという評価だったと思うんです。それを踏まえて、委員会の意見とするならば、出会いの機会の創出事業については、今一度検証をしてみるとか、市町村から出た意見を踏まえた新しい形の支援の在り方の検討とか、そういうことが必要じゃないかなと思います。
- ◎ そういう意見は、若者の定住、企業のさらなる促進の中にもあろうかと思いますので、今、一つの項目として、出会いの機会の創出の項目を上げて、その中で、委員が今言われるような、今では十分じゃないので、こういうところにもう少し力を入れていただきたいという声があったのは、これから順番に積み上げていくことでいいですよ。
- ◎ 今日いただいた意見を踏まえて、これをさらにバージョンアップをする予定です。
- ◎ お気づきの点を言っていただいたら、事務局が言いましたようにバージョンアップして順番にやりたいと。
- ◎ 先ほどおっしゃった、出会いの場づくりなんかは交付金を使った各市町村のほとんどにそれは入ってますので、現在進行形で、令和6年度の後半、今やっと出てきた感じ。だからそれをどう今後見ていくのかということと、もうひとつ出産に当たっての、妊娠・出産・子育ての、特に出産の部分が今大きく変わって、この4月1日から新たな形が始まろうとしているので、私はとてもそれを心配していて、本当に安全な出産を保障できる体制になるがやろうかというのが気になって仕方がないんです。県外調査に行った時も、とてもいいお話も聞かせていただいたんだけど、高知とは地理的条件が違っていましたよね。ですから、高知のようなところ、それから消防に依拠して、消防の皆さんに、出産の対応なんかをしてもらってる、長野とかそうですかね。そういうところ、一体どうなんだろうって。特に、出産できる病院がないことに対応してのシステムが、高知で4月1日以降にどう動くのか、とても心配をしているところなんですよね。
- ◎ 無痛分娩なんかも、全てそういう選択ができるわけではないので、まるで鳴り物入りのように言ってるけど、そういう形にはなっていないなと思って。麻酔科医とか体制がきちんとないと。
- ◎ ドクター、麻酔科医、助産師、一体として取り組まんと、そんなに簡単にいくものではないということも。簡単に無痛分娩と言われるけれども、その前段でかなり研修して、しっかりとドクター、皆さんがやっておかないと、そうはいかんだろうということは勉

強会で健康政策部も言いよったね。

- ◎ 資料の各自治体の交付金の活用状況を見させていただいて、どの市町村も多く共通しているのが、移住プラス定住ということで、住まいをどう確保するのか、提供できるのか、交付金の活用が共通してあるなと思いました。市町村が定住のために、ハード整備に一定負担がかかっていることが分かったので、共通してる部分については、県として何らかの土台、バックアップになるような施策が要るんじゃないかなと。空き家活用だったり、リフォームとか中身はそれぞれ違うんですけど、住宅に対する取組があるので、そこを県としてさらに進むようなバックアップを意見として入れればと。
- ◎ 仕事づくりと結びつけた馬路村にしても、東洋町にしても、いろいろ見させていただいて、根本的には移住してきてくれても、産業そのものがその地域でどう成り立っているのかという一定の分析がないと、人が住み続ける、特に若い人が住み続けることにはならないんじゃないかなという思いがあります。この間、県外に視察に行ったときに、やっぱり自分の町をどんな形にしていくのかというプランを持ってらした。住み続けられる、外から来てもその人たちが次に向かっていける、高知県のそれぞれの地域が、そういう地域になってるのかどうか分析の上で、仕事づくりというか、そういう考え方もあるのではないかと思います。もっと広域で今まででいったら、出産できる場所がある、保育園がある、学校がある、農業で生業が成り立つ。それを運送する運送業者がいる。一生懸命それぞれが頑張りよっても、お金を投資しても、結婚した途端によその町へ行ったという話がありましたよね。それいかんとは言えれんけれど。委員会としても、ただ問題点を出すだけでなく、その地域地域の幾つかの産業圏をどんなふうに見ていくのか。
- ◎ まとめ方に対する意見なんですけど。県として、今回調査した結果、県がどうあるべきか、県として何を強化したり、改善したりしていくのが、意見の集約の中に明確になってないと。視察して、交付金が活用されてましたで終わってしまうので、まとめるに当たっては、県政に対する方向性とか、また市町村からの共通する意見は出すとか、そういうまとめ方が大事かなと思うんです。
- ◎ 今回1年取り組んで、この人口減少対策に対しての特別委員会が、提言書として、こういう調査した、こういうことを県に対してという提言まではもうちょっとかかるということで、まずその提言まで行くまでの、委員会の取りまとめとしていくので、今言われるように、そういうことも提言ではないけれど、こういうことをやっていく方向性も必要ではないかということは、順番に、皆さん方からの意見を踏まえて、取りまとめていきたいと思っています。

◎上治委員長 正場に復します。

今、いただきました御意見につきましては、これから取りまとめていきまして、またバージョンアップして、次回の委員会では皆さん方と共有していきたいと思います。

次に、今後の調査について、資料の22ページを御覧いただきたいと思います。令和7年度上半期の活動予定についてです。書記から説明をさせます。

◎書記 令和7年度上半期の活動予定について御説明いたします。これまでの委員会においての決定事項、県内企業訪問に加えまして、新たな視点で取組が行われる4Sプロジェクトの聞き取りについて行うこととし、また、人口減少対策総合交付金の連携加算型の交付を受けた、11市町村の訪問をできればと思っております。企業訪問は、例えば、高知県ワークスタイルアワード受賞企業などを想定しております。交付金の交付を受けた11市町村については、資料3を御覧ください。市町村名に米印がある市町村が該当いたします。そのうち、幾つか訪問できればと思っております。以上です。

◎上治委員長 令和7年度上半期の活動予定についての協議をお願いします。

御意見を伺いますが、令和7年度の9月定例会初日に委員長報告という予定で、一旦は私たちも調査してきたことの報告を特別委員会であろうと思っております。ただこれはあくまでも提言をして、執行部に対して完成をやるのではなくて、委員会として、調査したことをまずは報告しようということですので、その辺は御了承願いたいと思います。令和7年度上半期について、小休にします。

(小休)

◎ 上半期にも関わらないんですけれど、提案させてもらっていいですか。県外調査、九州をさせてもらって、福岡市の隣の粕屋町が今回の意見の集約にもありました、出産しやすい環境整備ということで保健師と助産師の連携の分です。非常に大事な点があったので、ドゥーラに非常に近い部分で。産後うつとかいろんな部分で、お母さんが悩む、困るという。また、親元でおったらおばあちゃんが見てくれるけども見てくれない部分、特に高知市なんか、西から東から来て高知市内の中では、親がいないから、身内がいないからということで、うつになるとか、いろいろおられるんですけど。先ほど言われた部分でいうたら、中山間と街中、市という部分と、町と村と違うようになってくると思うんですよ。そんな点の中で、産後ドゥーラが、非常に今、女性の中からも人気があって、それを行政が支援をしているところとしてないところで、調べてみたら1時間大体3,000円ぐらいが基準。先般、それをやってるドゥーラ協会というのがありまして、ちょうど高知市が受入れをして、高知市の保健師とか、それから部のほうが研修を受けてるんです。東京にあるんですけども。もとなになっているのが、認定ドゥーラというのをつくっている一般社団法人なんですけど。理事長自体が助産院の院長先生なんですよ。その

方がつくられて全国に広げていって、お金をできるだけかけずに、行政がやらんといかん、ニッチな部分のそういった事業を、女性の助産師を主体として取り組んでいっているということで、今一番進んでいるのは中野区だそうなんです。一つは中野区はどんな状態でやっているか、産後家事育児支援事業というのをやっとして、全国の今モデルになってるそうなんです。併せて、近くにドゥーラ協会っていう、正式に認定するところがあるんで、そちらのほうは、他県なんかも行っておるそうなんです。講演をさせていただいて、ドゥーラとはどういったことを学べるということで、一つの例として、提案したいと思います。

◎ 高知県はどのくらい。

◎ 高知県には、香美市といの町にいます。

◎ ドゥーラではないけれども、例えば須崎市は産後ケア、家事、育児のお手伝いをする方が認定されているんだけど、とても忙しくてなかなか回ってこない。やっぱり人が少ないんですね。

◎ 今、児童福祉法で、訪問をして、産後になったお母さんを訪問してお手伝いをする。家事なら家事とか。ドゥーラは総合的に全てをやると。今、進んでいるところは、洗濯だけとか、料理だけ作ってくれて、やっぱり何かをしてほしいという、トータル的な分を求めるところが非常にあるみたいで。実績を見たときには、それをしてくれたところは、1人産んでるところは2人3人とか、子供がさらに増えていってるという実績上がってるという成果が出ているんです。

◎ 今言われてる産後ドゥーラの資料、皆さん方のお手元に回しましたので、見ていただいたらいいかと思います。今、特に少子化にとったら、女性産後がしんどいんで、第一子が済んだら第二子、第三子へはなかなかという意見も大分あるようなんで。これも事務局、あるいは県のほうにも少し調べていただいて、そちらのほうへ調査に行くのがいいのか。聞くより見たほうがいいのかと思うんで、実際行って、見て、勉強会をしちよって聞き見ることも大事なのかも分かりませんので、ちょっと、今後の日程の中に、入れさせていただいて、ここで今、直ちには言えませんが、そこはお願いしたいと思います。

◎ 勉強の仕方として、連携加算型のいろんなメニューはそろってきたと。その中で特に内容的に似通ってるところとか、そんなところを抽出して、それに関係する全国的にすごく先進的な事例、成果を上げている事例なんかがあったら、そこへ行くことによって、あと県内の市町村のこういった取組とまた同じように学んで、その違いをしっかりと勉強する。県としても、助言なり市町村に寄り添って、この連携加算型とともに成果を上げていくという姿勢でおるはずですので、そういうアプローチの仕方もあるんじゃないかと。

- ◎ 意見があったということで。
- ◎ ファミリーサポート事業の行政からの委託を受けてる団体があると思うんですけど、県内で育児をサポートするという国の制度でもあるんですけど、ファミリーサポート事業の今の現状と、うまくマッチングにならない原因なんかが分かって、何か県として支援が出来たら、すごく効果的かなと思って。ファミサポの団体、県レベルがあるかどうかちょっとわからないですけど、お話聞いてみたい、来てくださるやったらありがたいなと思います。
- ◎ それやったら、県外で進んでるところ行くより高知市とか県内の中でファミサポで県が支援してやってるので、その実態みたいなものをつかむほうが。
- ◎ 県内で。
- ◎ あったかふれあいセンターとか、全市町村ではもちろんないし、どういうことをやっているのかなとか、結構、結びついたことも、おばあちゃんや子供も一緒になってみたいな話聞いたことあるので。そういうところでどんなことをやってるのか。介護だけじゃなくて乳児や乳児を連れたお母さんたち、ちょっと前なんですけど、聞いたことあるので、あったかふれあいセンターの位置づけはどんなになっているとか。
- ◎ ドウラについては、中野区は政策を打ち出して、東京都がバックアップしておるんで、基礎自治体と県とでタイアップして、人口の増加につなげておるんです。ドウラの例で政策を知って、都会やけども国からどんなものをとってきているのかもよく分かると思う。
- ◎ 高知のドウラに関係する方たちに話を聞くということもいいかもしれませんね。
- ◎ けど、十分動けてない。1時間3,000円やから、みんなよう出さんそうなんですよ。お母さんも使いたいけどもよう使わんいうて。今、高知市が動く前の段階で。大変お金が要るということで。
- ◎ 私、山形に行きたいなと思って、山形の地消地産で、大学と連携して新規産業の分野をずっとつくっていきゆうという。
- ◎ 子育てやなくて。
- ◎ 住み続けられる地域をつくるという。
- ◎ やっぱりスケジュール。今回すごい前半タイトじゃないですか。いろんなものがあつたりして。ある程度、どこのタイミングでどれぐらいの期間いけるのかという全体像があるんで、あんまりこう広げ過ぎてもなかなか最後集約のところまでの部分もあるし、そこら辺のバランスも。
- ◎ 皆さん方の意見をまずお伺いして、9月議会までにどこまでできるのかというのを、これから日程調整を。これで終わりではない、やらないというわけではないので。例えば、さっき言われた産後ドウラ、ひょっと9月以降にこけるかも分かんし、県外調

査はこれまでは無理かも分らん。取りあえず意見を聞いちゃったら、次、事務局が大体の段取りをやっていいこうやないかというところで。

◎ 大体このスケジュール感でいくと、7月とか8月の辺りしか、基本は入れれないとしたもの。

◎ その辺を見ながら。

◎ 提言の方向性が見えて、より深くするために調査したらどうですか。

◎上治委員長 正場に復します。

今、皆さんからいただきました御意見を踏まえながら、事務局のほうと、少し調整をしながら、産後ドゥーラであるとか、4 Sプロジェクトの聞き取りであるとか、市町村訪問、あるいはファミリーサポートとか出ました。あったかふれあい、様々なことについて、今から一通り1回まとめますので、具体的な日程につきましては、正副委員長に一任をお願いしたいと思います。

◎中根委員 9月の取りまとめまでに、4月から出産の一元化が始まるわけですね。それで、これまでと違った形で、8か月以降は、高知市の日赤とかそういうところまで通って、出産の直前にはホテル代も出しますよとか、そういう新しいことが始まるわけですね。4、5、6、7、8。5か月くらい経って、その状況がどうなんだろうというふうなこと、忙しい中でやけど。健康政策部あたりに調査してもらって、それをお聞きするような中間報告の前にちょっと1回やったらどうかなという気がしています。

◎上治委員長 基本的には私ども執行部からの聞き取りがすごく大事なんで、4月からスタートする4 Sプロジェクトも同じなんで、そういうことを踏まえて今言われる、健康政策部のほうに、そういうものがうまく聞き取れたら、これは当然、もうスタートするんで。それからまた今言われますように、例えば、7月ぐらいまでには、大体、3か月行ったときの状況、課題、あるいはその県としてどういうところがあったか、これは聞きとったらいいと思います。

次に委員会の次回の開催の日でございますけれども、4月にスタートしまして、組織委員会、業務概要調査、それから出先機関等調査と順番に行っていきます。もし4月、5月のときに、うまく皆さんとの調整がついて、時間があつたら、1時間程度はお話ができますよね。この日程で、大体進んでいいこうというのが今日皆さん方の意見をまとめて出来ましたので、そういうふうにしたいと思います。委員会の日程につきましても、正副委員長で調整をさせていただいてよろしいですか。

(異議なし)

◎上治委員長 具体的な日程につきましては、調整の上、事務局から連絡をさせていただきます。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これで、本日の委員会を閉会といたします。

(15時5分閉会)